

“MONOの附”企業 [中部]

もの の ぶ

中部地方で附加価値の高いMONO(商品・サービスなど)を提供する企業を紹介いたします

ボディコート・ジャパン(株)

<40-267911-3>

名古屋市西区

熱処理加工世界トップの技術が日本市場で本格稼動へ

「軽量化、省資源の要請がどんどん高まり、薄くなった部品の磨耗を減らすためにも金属硬化は必要なんです」—熱処理加工世界トップの英ボディコート社日本法人ボディコート・ジャパンのジュリアン・ベイショア代表取締役 (Representative Director-Japan) はそう語る。

北米、北欧、アジアを中心に35カ国約300以上の金属熱処理事業者を抱え、いま日本法人でも工場設置の準備を開始した。2018年に日本国内に熱処理10工場を構える計画がある。

§ 熱処理加工はボディコート社の中核事業 §

ボディコート社はいま、自動車、航空機部品の熱処理受託加工が中核事業。金属を熱加工処理して硬質化したり保護コーティングする技術だ。ネジ、歯車、ジェットタービンの翼と受託商品はどんどん広がった。

「硬化するといっても商品によって硬すぎてもいけないし、もちろん柔らかくてもダメ」。炭素を浸み込ませる「浸炭」、窒素を吹き込む「窒化」、さらに処理の仕方によって、高周波熱、熱間静水圧プレス (HIP処理) など主なものだけでも10数種ある。どの方法をとるかは、材質、求める仕上がりによって違い、その加工技術こそがボディコート社の内部蓄積だというわけである。

とくに鉄の表面に炭素を打ちつける「低圧浸炭」には高い技術力があり、すでにトランスミッション (自動車変速機) の歯車にはこの技術が使われている。

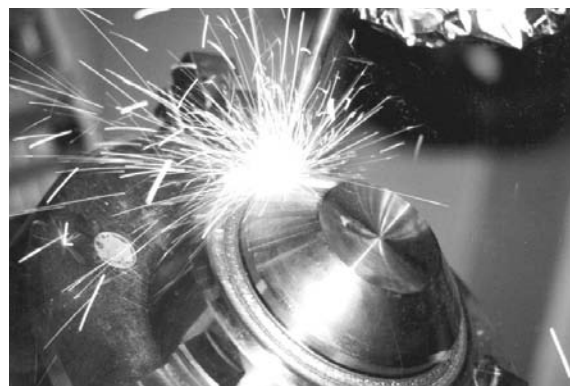
§ 関連生産拠点の多い場所にジャパン本部 §

英ボディコート社全体で1,491億円 (07年度実績) の売上げがあり、うち熱処理事業が約

982億円 (構成比66%)。さらに、このうち23%が自動車関連、20%が航空宇宙・防衛で占める。日本法人本部を名古屋に持ってきたのもこのためだ。

10年中に1工場を立ち上げ売上高5億円。さらに同規模で18年までに10工場50億円体制とする考えである。いずれも事業継承が軸となる。

熱処理受託サービスおよび材料物性試験を実施している



「軽量化、省資源の要請で部品がどんどん薄くなり、その機能を維持、強化するためにも硬質化が必要になってくる」と。



平均40~50人規模の工場(法人)を国内に10カ所つくる計画である

住	所	〒451-6040 名古屋市西区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー40階
電	話	052-912-5518
F A	X	052-569-1590
U R L		http://www.bodycote.co.jp/
E - m a i l		japan.sales@bodycote.com
希望取引先		パートナー・ショップ